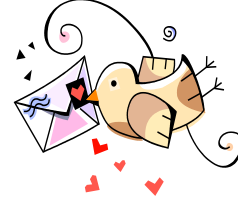


# 安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

## ★ 安全リレー ★



## 徳島県における安全・適正就業の取組み

### 徳島県シルバー人材センター連合会の概要（平成30年度実績）

・センター数	24 団体（国庫補助団体 12 団体、補助対象外 12 団体）
・会員数	4,763 人（男 3,007 人 女 1,756 人）
・粗入会率	1.62%
・就業実人員	3,981 人
・就業率	83.6%（請負・委任 75.8%、派遣 46.2%）
・就業延人員	464,883 人日（請負・委任 399,615 人日、派遣 65,268 人日）
・受注件数	44,381 件（請負・委任 43,878 件、派遣 503 件）
・契約金額	2,320,960 千円（請負・委任 1,997,450 千円、派遣 323,510 千円）

### 1. 徳島県の過去5年間（平成26年度～30年度）の事故発生状況

年 度	会員数（人）			就業延人数 （人日）	事故発生件数			内重篤事故 （件数）		損害賠償 事 故 （件数）
	男	女	合計		就業中	途上	計	就業中	途上	
26	3,292	1,883	5,175	492,991	34	9	43	1		23
27	3,330	1,936	5,266	494,120	20	5	25			28
28	3,165	1,832	4,997	499,765	20	5	25		1	14
29	3,144	1,786	4,931	480,270	21	3	24		1	15
30	3,007	1,756	4,763	464,883	30	3	33			17

当県においては、平成26年度から毎年のように重篤事故が発生しており、全国的にも重篤事故率が非常に高く、不名誉な事態となっている。これらの事態を解消するため、安全・適正就業委員会は拠点センター（以下「センター」）に非常事態を宣言し、センター会員個々の安全就業に対する意識啓発・高揚及び徹底を図るため、センターと一丸となってさまざまな取組みを行っている。

### 2. 連合会における安全就業の取組み（平成30年度）

#### （1）安全・適正就業委員会の開催

センター会員の安全・適正就業に関する事項を協議・検討し、その対策を推進するため開催。

### ☆主たる開催概要（年3回開催）

- ・平成29年度事故発生実績及び分析
- ・ヒヤリ・ハット調査
- ・安全・適正就業巡回指導（安全・適正就業パトロール）の実施
- ・平成30年度発生事故状況及び分析
- ・安全で適正な就業のために（第12号）の作成
- ・平成31年度事業計画の作成 等

## （2）安全・適正就業パトロールの実施

### ☆巡回指導活動の目的

8センター（3年で一巡）を対象として会員就業現場を巡回し、適正な就業形態になっているか、また作業別安全・適正就業基準に基づき就業されているか、否か等について、現場での会員就業実態を確認するとともに、各センターの安全・適正就業担当理事、安全・適正就業委員、事務局職員等との情報交換を行い、安全で適正な就業への取組みや対策についての強化及び意識啓発を図ることを目的として実施。

### ☆安全・適正就業委員会巡回指導活動実績

- ・実施時期 平成30年10月
- ・巡回委員数（連合本部） 委員7人・事務局1人
- ・指導センター数 8センター
- ・巡回指導対象就業会員数 42人



（現場パトロール）

## （3）安全・適正就業担当者会議の開催

センターの安全・適正就業担当職員の情報交換の場を提供するとともに、問題点及び課題点等を共有することにより、今後の安全・適正就業対策について理解と認識を高めることを目的として開催。（ブロック開催）

区分	対象センター数	主たる開催概要等
西部ブロック	6センター	1. 29年度事故発生状況・分析結果について 2. ヒヤリ・ハット調査について 3. 安全・適正就業巡回指導活動について 4. 情報交換
南部ブロック	8センター	
中央ブロック	10センター	

## （4）「ヒヤリ・ハット私の体験」年間調査及び取りまとめの実施

これまで事故に至らなかったが、一步間違えれば、あるいは運が悪ければ大事故に繋がる「ヒヤリ・ハット」した経験を持つ会員からの体験事例を収集・周知することにより、センターと会員間のコミュニケーション、及び会員の安全就業に対する意識啓発の強化・充実に努めるため実施。

- ・実施時期 年間を通じて収集

### 徳島県内シルバー会員がヒヤリ・ハットした時のあらまし

作業内容	年齢	性別	あらまし
草刈・除草作業	74	男	カーブの道路で、表示板コーンを立てて草刈作業中、スピードを上げた車が走行してきたが、背中を向けて作業していたので、草刈り機が車に接触しそうになった。
	70	男	刈払機の刃に草が巻き付いたため、それを取り除いた時、刃が急に回転して怪我をするところだった。
	79	男	土手の草刈作業中、車道周辺を作業中小石が跳ねて走行中の車両の後部ガラスに当たったが大変に至らなかった。
	70	男	個人所有の畑(500㎡)を草刈作業中、近くに車が駐車してあった。刈払機を使用しているため、飛び石の可能性があるため、作業を中断する。次の日、車がなかったため、安全確認後作業する。
	70	男	除草作業中、庭木に害虫がたくさんいたため、作業を中断する。お客様に理解してもらった上、消毒作業を行い、数日後害虫が死滅したのを確認後、注意しながら作業した。
	70	女	除草作業中、木の木にイラガがたくさんいたため、作業を中断する。お客様に理解してもらった上、消毒作業を行い、数日後害虫が死滅したのを確認後、注意しながら作業した。
	70	男	草刈作業中、車が駐車していないのを確認していたが、数十分後車が駐車していたので作業を中断する。翌日、車が駐車していないので遅やかに作業した。
	70	女	個人宅を除草作業中、立ちくらみがあつた。作業を中断し、木陰で水分を補給して休憩した。作業を中断し、その日は体調が良くなることがなかったため次の日に作業する。
	72	男	車の通りの少ない現場での作業中集中しすぎて車が来たのに気づかなかった。その時に飛石をしてたら等思ふとヤットした。
	65	男	ハンドルが振り出したと思ったら更に強く振動、思わず右手を離したが、すぐに列方が回転しながら5m位飛び出しました。近くに犬と歩く人にもう少しで当たる所であった。初めての経験でヒヤリと冷汗をかきました。
剪定作業	69	女	柿の木の枝に毛虫(イラガ)が大量に発生していたため、ビックリしてヒヤットした。発注者に申し出て消毒をした後に数日たって作業をした。毛虫(イラガ)に刺されるとからだ全体が赤く腫れ上がり通院して1週間かかる。想像した以上にヒヤットする。
	65	女	バイクが前から来たのに気づかず、クラクションで気づきハットした。作業現場が道路沿いのため危険要因の注意が甘くなっていた為、横断の際に左右の確認を怠り、ヒヤットした。
	70	男	個人宅を2〜3名で除草作業中、サツキの中から急に蜂がでてきた。驚いたが、用意していた蜂ジェットで駆除した。急のため、ほかにも蜂がないか確認し、蜂が隠れている所には、蜂で叩きながら、作業した。
	70	男	田んぼの畔を草刈り機で作業中足元が見えず水路に落ちそうになった。
	71	男	草刈をして、残材の草を集めて軽トラに集める時、軽トラを停めてある場所は路上で交通量が多くなり相手車両の運転手は草を積み込んでいるのが見えないようであった。(コーンを立ててなかった。)
	73	男	草刈作業中畦道と境界を探していた時伸びた草で段差が分からず、踏み外しそうになった。
	68	男	畑の溝の中を早く終了しようと思って移動中、置いてあったソリカナにつまずき、ソリカナの刃が上を向いて踏みそうになりヒヤットした。
	76	男	3m程の高さの横の木の刈込を7段の脚立の上に立って行って行った時、突然脚立の一本の足が土にめり込みバランスを失い倒れました。とっさに横の木にしがみつき落下を免れました。
剪定作業	70	男	剪定作業時に8段の脚立の上部に上り無理な姿勢で作業した為、身体がバランスが崩れ転倒しそうになった。
	70	男	12尺の梯子を使用し、木の剪定をしていたが、その日は風が強く、危険と感じたため、作業を中断し、別の日に作業した。
	66	男	10尺の梯子の5段目で作業中、少し斜めに梯子がかかっていたが、あと一歩だけだったので、作業を続けた時に梯子が揺れ動いた。一度梯子から降り、梯子と木をロープで固定し、作業を続けた。
	78	男	三点梯子のチェーンを掛けずに広げたまま一番上に乗って作業をしていた時、梯子の足が動き危なかった。
清掃作業	65	女	水をこぼしていたのに気付かず、滑って転倒したが怪我はなかった。
	62	女	窓を開めるのを忘れてた。後で気が付き確認してから、窓を開めに行った。
農作業	66	女	いちごハウスでの作業でめまい・ほき気がしたので木陰に休み、水分と水分を十分にとった。
普及開拓	69	男	メモをしながら徒歩で販道を下っている途中、蓋の無い用水がカーブしており気が付き落ちそうになった。
樹木の伐採	61	男	樹木を目標の位置に倒すように十分な準備をしてロープで補助していたが、目標よりずれて公共のフェンスに木の先が接触した。もつとずれていたらフェンスを破損していた。
枝払い作業	75	男	朝露で落ち葉が濡っていて、バランスを崩し2m〜3m下に足を滑らせた。途中でコンクリートの仕切りがあり、そこで止まった。危うく下まで落ちるところだった。
就業途上	70	女	17:00に作業が終わって、自転車にて帰宅中、ライトをつけようとしたところ、ライトが点灯しなかったため、自転車を押して帰った。後日、修理してから自転車を運転している。
	70	女	自転車で移動中後ろから来る車に気がかず右折しようとした時、ぶつかりそうになった。
	64	女	仕事を終えて帰るため、交差点で右折しようとした時、対向車の最後尾にスクーターがいることに気が付き、ぶつかりそうになりヒヤットした。

### (5) 事故要因分析の実施

ヒヤリ・ハットの調査の他に、事故を起こした会員から事故報告書と併せて、事故要因の報告を受け、事故を未然に防ぐためどうしたらよいかを作業前の安全確認等に活用するようにしている。

現在までの集計の結果、事故要因で多いのは、以下の集計表の通り心理的要因が多く、就業時の心構えが不十分である事が浮き彫りになっているため、各センターの安全担当者には会員の就業開始の際にそれらを徹底するとともに、現場の安全状況を把握し、危険物の除去対策等十分に行うよう、就業会員に伝えるよう指導している。

平成26年～平成30年事故要因集計表		傷害		損害	
事故原因		事故		事故	
I	心理的要因	回答数	全体比率	回答数	全体比率
1	経験が深いから大丈夫だと思った	38	12.20%	28	13.40%
2	注意の集中が不十分であった。	73	23.50%	41	19.60%
3	錯覚を起こし判断を誤った。	6	1.90%	4	1.90%
4	仕事が単調すぎてボンヤリしていた。	2	0.60%		
5	緊張しすぎて、かたくなっていた。	3	1.00%	2	1.00%
6	いつでもやっているので慣習的に判断した。	31	10.00%	29	13.90%
7	早のみこみで、早合点した。	5	1.60%	5	2.40%
8	急がされたので、慌てて作業した。	7	2.30%	1	0.50%
9	自分中心で作業した。	3	1.00%	9	4.30%
10	気分がすぐれず、いやいや作業した。	2	0.60%		
	小計	170	54.70%	119	56.90%

<b>II</b>	<b>生理的要因</b>				
11	物を見誤って判断した。	7	2.30%	11	5.30%
12	疲れていたので正しい動作をしなかった。	1	0.30%		
13	情報、指示がはっきり聞こえなかった。	1	0.30%		
14	物や言葉を見間違え、聞き違えた。	1	0.30%		
15	手足が弱っていた。	5	1.60%	1	0.50%
16	身体のバランスが思うようにとれなかった。	23	7.40%	2	1.00%
17	心と体の供応がうまくいかなかった。	3	1.00%		
18	目まいが起り、一瞬フラッとした。	3	1.00%		
19	作業動作が緩慢すぎた。	4	1.30%	3	1.40%
20	持病(高血圧・糖尿など)を無視しすぎた。	1	0.30%		
	小計	49	15.80%	17	8.10%
<b>III</b>	<b>作業が要因</b>				
21	作業手順を守らなかった。	4	1.30%	9	4.30%
22	作業手順がないので勝手な方法で行った。	4	1.30%	2	1.00%
23	経験があるので、独自の方法でやった。	8	2.60%	10	4.80%
24	自分の能力を過信して作業した	15	4.80%	12	5.70%
25	単純なので、気にせず反射的にやった。	14	4.50%	16	7.70%
26	無理な姿勢で作業した。	12	3.90%		
27	危ない位置で作業した。	7	2.30%	4	1.90%
28	能力以上の物を持った。	1	0.30%		
29	急激な動作をした。	2	0.60%		
30	休まず長時間作業をした。	1	0.30%		
	小計	68	21.90%	53	25.40%
<b>IV</b>	<b>作業環境が要因</b>				
31	作業照明の不適一明るさ、方法など。			1	0.50%
32	作業場の温熱条件の不適一温度、湿度、気流など。	1	0.30%	1	0.50%
33	作業場の換気・通風の不適。	1	0.30%		
34	作業場のガス・蒸気・粉塵など。				
35	作業場の騒音・振動など	2	0.60%	2	1.00%
36	作業床の広さ、滑り、凸凹など	9	2.90%	2	1.00%
	小計	13	4.20%	6	2.90%
<b>V</b>	<b>作業管理が要因</b>				
37	作業手順が規定されていない。				
38	作業の打合せ、指示が不適切である。	1	0.30%	6	2.90%
39	作業についての教育、訓練が不十分である。	1	0.30%	1	0.50%
40	職場の危険表示が不十分である。	1	0.30%	1	0.50%
41	設備、機械の安全化が不十分である。			2	1.00%
42	現場監督者の職場の巡視が不十分である。				
43	作業についての高齢者の配慮をしていない。	4	1.30%		
	小計	7	2.30%	10	4.80%
<b>VI</b>	<b>共同作業が要因</b>				
44	チームの動作呼吸が合わない。				
45	人員不足のまま作業した。	2	0.60%	1	0.50%
46	指揮者の指示が不徹底であった。	1	0.30%	2	1.00%
47	合図の方法が不徹底であった。	1	0.30%		
48	相手がやってくれると思った。			1	0.50%
49	作業の分担が不明確であった。				
	小計	4	1.30%	4	1.90%
	合計	311	100.00%	209	100.00%

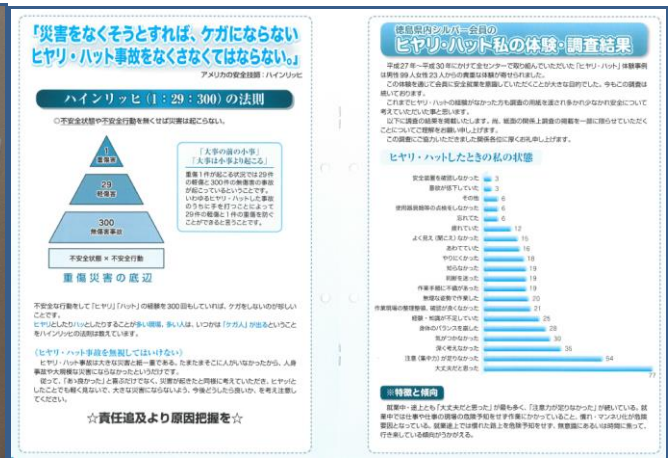
## (6) 会員安全就業意識啓発の実施

安全に関する情報や事故発生速報、全シ協発行「安全就業ニュース」の定期的な情報発信、及び安全・適正就業に関する小冊子（安全で適正な就業のために）を作成するなど、会員の安全就業に対する意識啓発を図るために実施。

- ① 会員用小冊子「安全で適正な就業のために（第12号）」の作成
  - ・平成31年1月発行 5,100部（全会員に配付）
- ② 全シ協発行「安全就業ニュース」の情報提供
  - ・連合とセンターの情報共有ツール「県内イントラ」に毎月掲載
- ③ 事故状況の収集とその分析、再発防止のフォローアップ
  - ・連合とセンターの情報共有ツール「県内イントラ」に都度掲載



小冊子「安全で適正な就業のために」



「安全で適正な就業のために (12号)」抜粋。

## (7) 運転業務従事高齢会員(70歳以上)に対する運転技能簡易教習の実施

シルバー派遣事業にて運転業務に従事している70歳以上の方を対象として、徳島運転免許センターと連携し、運転免許センターの教官による①実車指導（免許センターの車両で運転技能などを診断）②面接指導（実車の結果を個別に指導）を実施。

徳島県は、重篤事故率が全国最下位に近い不名誉な事態が続いており、これを解消するためには、会員ひとり一人が就業に対して危機的な意識を持って安全意識を高め、未然に事故発生を防ぎ、「事故ゼロ」を続ける事にある。

当連合会においては、上記のような取組みを組織的に実施しており、「安全は全てに優先する」を意識し、安全・適正就業委員会を核として、センターと一丸となり「事故ゼロ」を目指して積極的に組んでいくこととしている。

徳島県シルバー人材センター連合様からの報告でした。  
詳細にわたるご報告、誠にありがとうございました。

# 令和元年度 11 月 事故速報

## (1) 重篤事故

11 月は、7 件の重篤事故報告がありました。

11 月までの累計で比較してみると、平成 30 年度の 25 件と比して令和元年度は 21 件と 4 件減少しています。

なお、過去 10 年間に於いて重篤事故件数が一番少なかった平成 28 年度(年間 28 件)の 21 件と比較しても同数となっていますので、今年度の重篤事故件数が過去 10 年間の最少件数を更新できるよう、安全対策に取り組みましょう。

また、就業中・就業途上別にみると、就業中では平成 30 年度の 17 件と比して 10 件と 7 件の減少となっており、また就業途上においては、平成 30 年度の 8 件と比して 11 件と 3 件の増加となっています。

### 11 月報告分までの累計

令和元 年 11 度 累 計	就業中・ 就業途上	件数	内 訳				平成 30 年度同月累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	10 (3)	7 (3)	3 (0)	9 (3)	1 (0)	就業中	17	14	3	16	1	
就業途上	11 (4)	4 (1)	7 (3)	10 (3)	1 (1)	就業途上	8	7	1	7	1	
計	21 (7)	11 (4)	10 (3)	19 (6)	2 (1)	計	25	21	4	23	2	

↳ 対前年度比 84.0% ( )は、当月(11月)報告分です。

### 11 月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全 帽	安全 帯	交通 手段
15	男 79 歳	就業途上 (入院)	駐輪場の就業に自転車で向かっている途中、T字路で車(相手)と衝突し転倒した。病院に救急搬送されたが入院後6カ月が経過した(後日退院)。病名は頭部外傷、外傷性くも膜下出血。	—	—	自転車
16	男 71 歳	就業途上 (入院)	自転車で帰宅途中、交差点で右折車にはねられ病院に救急搬送された。入院後6カ月経過したが現在も入院中である。病名は脳挫傷、急性くも膜下出血。	—	—	自転車
17	男 66 歳	就業中 (死亡)	会員3名で川沿いに立つ桜の枝下し作業を行っていた。昼休みが終わりかけの頃、トイレから戻ってきた会員が川に墜落している会員を発見し、病院に救急搬送されたが翌日死亡した。現場の状況から会員が一人で桜の枝に向かい梯子をかけ、登った際に梯子が壁の上部を支点にし、シーソーのように川側に傾き、川に墜落したものと推測される。	×	×	—

18	男 67歳	就業途上 (死亡)	就業を終えて、自転車で帰宅する途中、信号機の無い十字路の交差点で、一時停止のある道路から横断する際、左から直進する車両と激突し、病院に救急搬送されたが当日死亡した。	—	—	自転車
19	女 72歳	就業途上 (入院)	自転車で就業先に向かう途中、信号機のない交差点において、南西に向かう会員（自転車）と北西に向かう自動車が出合い頭の事故により、会員は頭部外傷の負傷を負った。入院後6カ月が経過したが現在も入院中である。	—	—	自転車
20	男 74歳	就業中 (死亡)	会員4人で個人宅の家事援助として出向き、10時45分から12時まで外で窓ガラスの拭き掃除を行った。その後、昼休憩に入りエアコンの効いた部屋で他の会員と会話を行った後、顔色が変わり横になったことから熱中症の恐れがあったため救急車を手配した。しかし救急車が到着時点で心肺停止をしており、病院に救急搬送されたが、搬送後も心肺停止状況が回復せず死亡した。	—	—	—
21	男 81歳	就業中 (死亡)	就業場所（公営配水池の除草作業）に向かうため階段を登っていたが、途中で転倒し階段を転落した際に頭部を打った。病院に救急搬送されたが当日死亡した。	○	—	—

今年度の重篤事故件数は、毎月1～3件で推移していたことから、10月報告分現在14件と、このままいけば過去10年間における最少件数（平成28年度の年間28件）を更新できる状況でした。しかし、11月報告分では7件と急増したことにより11月報告時点で、平成28年度同期の21件と件数が並んでしまいました。

今年度は「就業中」と「就業途上」が、ほぼ同数で推移しています。（例年は全体の約7割が「就業中」）「就業中」の事故は例年より件数が減少しており、就業中の事故を減らす対策に取り組んだ効果が数値として表れてきたと思います。

その一方で「就業途上」の事故は、例年とほぼ同数で推移しています。

不可抗力による交通事故を原因とする場合が多いため、事故防止についての対策が難しいとは思いますが、就業場所への行き帰りについても、「自分の身は自分で守る」ことを十分認識し、安全運転に努め安全対策に取り組むことにより、重篤事故の年間最少件数を更新するよう、皆でがんばりましょう。

**(2) 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故**

11月は、就業中の事故16件、就業途上の事故4件と、合計20件であり、昨年度同月の24件と比して4件の減少となっています。また、男女別では、男性は6件の減少となっており、女性は2件の増加となっています。

11月までの累計で比較してみると、昨年度の202件と比して、本年度は166件と36件の減少となっています。就業中・就業途上別にみると、就業中は13件の減少となっており、就業途上も23件の減少となっています。男女別では、男性は22件の減少となっており、女性も23件の減少となっています。

**令和元年度11月分**

	仕事の内容	事故数(件)		男性(件)		女性(件)		平均年齢(歳)	
		11月	累計	11月	累計	11月	累計	11月	累計
就業中	植木・樹木の剪定等	9(9)	50(50)	8(9)	49(49)	1(0)	1(1)	75	74
	除草作業	1(3)	18(30)	0(2)	12(23)	1(1)	6(7)	83	76
	屋内・屋外清掃作業	5(3)	27(19)	2(2)	13(10)	3(1)	14(9)	76	76
	その他	1(4)	27(36)	1(3)	17(24)	0(1)	10(12)	83	75
	計	16(19)	122(135)	11(16)	91(106)	5(3)	31(29)	76	75
就業途上	徒歩	1(1)	11(18)	0(0)	4(5)	1(1)	7(13)	73	76
	自転車	1(3)	23(30)	1(2)	10(11)	0(1)	13(19)	78	76
	バイク	1(1)	7(13)	0(1)	1(5)	1(0)	6(8)	73	73
	自動車	1(0)	3(6)	1(0)	1(2)	0(0)	2(4)	81	76
	計	4(5)	44(67)	2(3)	16(23)	2(2)	28(44)	76	76
合計		20(24)	166(202)	13(19)	107(129)	7(5)	59(73)	76	75

( )は平成30年度同月、累計では同月までの発生件数

「シルバー人材センター団体傷害保険に係る事故件数等報告書」については、事故の有無にかかわらず毎月8日までに必ず提出願います。

(平成30年4月24日付 事務局長通達により通知済)



### (3) シルバー派遣事業における労働災害報告の事故（休業1ヶ月以上）

9月は、仕事の型別では「測量技能士」、「配達員」「選別作業員」がそれぞれ2件、「他に分類されないサービスの職業」、「一般機械器具修理工」がそれぞれ1件あり、合計8件となっています。男女別の内訳は男性が6件、女性が2件となっています。

9月までの累計は55件となり、男女別の内訳は、男性が32件、女性が23件となっています。なお、死亡事故はありませんでした。

#### 令和元年度9月分

	仕事の型（小分類）	小分類 コード	事故数（件）		男性（件）		女性（件）		平均年齢（歳）	
			9月	累計	9月	累計	9月	累計	9月	累計
業務災害	測量技術士	93	2	2	2	2	0	0	65	65
	受付・案内事務員	254	0	1	0	1	0	0	-	71
	小売店販売員	323	0	2	0	0	0	2	-	74
	その他の家庭生活支援の職業	359	0	1	0	1	0	0	-	73
	調理人	391	0	4	0	0	0	4	-	70
	飲食物給仕係	403	0	4	0	0	0	4	-	74
	その他の居住施設・ビル等の管理の職業	419	0	1	0	1	0	0	-	72
	他に分類されないサービスの職業	429	1	2	0	0	1	2	70	70
	自動車組立設備制御・監視員	513	0	1	0	1	0	0	-	65
	弁当・惣菜類製造工	554	0	1	0	1	0	0	-	67
	木製品製材工	561	0	1	0	1	0	0	-	72
	一般機械器具修理工	601	1	1	1	1	0	0	75	75
	バス運転手	661	0	2	0	2	0	0	-	70
	内装工	717	0	1	0	1	0	0	-	78
	配達員	755	2	3	2	3	0	0	74	72
	荷造作業員	756	0	1	0	1	0	0	-	67
	ビル・建物清掃員	761	0	2	0	0	0	2	-	73
	ごみ収集・し尿汲取作業員	764	0	1	0	1	0	0	-	70
	産業廃棄物収集作業員	765	0	2	0	2	0	0	-	74
	その他の清掃の職業	769	0	2	0	1	0	1	-	72
	製品包装作業員	771	0	2	0	1	0	1	-	72
	選別作業員	781	2	7	1	4	1	3	69	69
	軽作業員	782	0	7	0	3	0	4	-	70
	他に分類されない運搬・清掃・包装等の職業	789	0	4	0	4	0	0	-	71
	計	-	8	55	6	32	2	23	70	71

### (4) シルバー派遣事業における通勤災害報告の事故（休業1ヶ月以上）

上半期（4月～9月）は、通勤の型別では「転倒」が7件、「交通事故（道路）」が3件、「激突され」が1件あり、合計11件となっています。男女別の内訳は男性が5件、女性が6件となっています。

なお、死亡事故はありませんでした。

#### 令和元年度上半期分（4月～9月分）

	事故の型	事故数(件)	男性(件)	女性(件)	平均年齢(歳)
通勤災害	転倒	7	4	3	75
	交通事故(道路)	3	1	2	76
	激突され	1	0	1	75
	計	11	5	6	75

「シルバー派遣事業における労働者死傷病報告等に基づく労働災害報告」については、(1)「派遣・業務災害報告」については、各月翌月最終稼働日までに、(2)「派遣・通勤災害報告」については、令和2年3月31日までの期間での発生分を令和2年4月30日までに必ず提出願います。(平成31年4月22日付 事務局長通達により通知済)

## 編集後記

今年も残りわずかとなりました。会員のみなさまはお忙しい日々をお過ごしのことと思います。師走に入ってから寒暖差が激しく、体調管理も大変だと思います。今年も昨年につき、色々な災害がありました。特に台風による浸水等で被災された会員、センターも多数あり、復旧には沢山の時間と労力を費やされていることと思います。今年の「新語・流行語大賞」には「ONE TEAM」が選ばれたそうですが、こういう時こそ会員全員でワンチームとなり、苦難を乗り越えていただきたいと思います。もうすぐ令和初めてのお正月がやってきます。みんな元気にその日が迎えられますよう、事故を起こすことなく、最後まで気を引き締めて参りましょう。今の時期は冬季特有の天候や寒さなど就業場所の作業環境の悪化による災害も発生する恐れがありますので、気をつけましょう。 — (松山)

今月は「シルバー派遣事業における通勤災害報告の事故（休業1が月以上）」の上半期（4月～9月）を掲載しました。通勤災害の原因では「転倒」が7件と最も多いのが目を引く結果となりました。また、特に降雪地域では、雪道、凍結路のスリップ事故にも十分な注意が必要です。就業途上のみならず、就業中の事故にも十分注意してください。 (笹野)

## 事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな

### <頒布物のご案内> 新規会員さんへの研修に活用ください!

全シ協では、シルバー人材センター事業を円滑に運営・推進していただく一助として、手引書、冊子などの頒布物を発行しています。

#### 事故に学ぶ交通安全のポイント「改訂版」

交通事故の死亡者は年々減少傾向にある中、65歳以上の高齢者が占める割合は年々高くなっています。シルバー人材センター会員の皆様においても就業途上において歩行中・自転車乗車中の事故が多く発生しています。このため、事故に注意していただき、安全な就業をしていただくため改訂版を発行しました。是非、会員の皆様に対する研修会・講習会等のテキストとして活用ください。



頒布価格 200 円 A4 判  
(税抜・送料実費)

#### 【改訂の内容】

- 1 現行のB5版／16頁からA4版／20頁とし、見やすく、分かりやすく、内容の充実を図りました。
- 2 警察庁交通局の「平成27年中の交通事故の発生状況」から、特に、高齢者の事故が多い内容や原因について注意喚起を行う事項を追加しました。
- 3 シルバー人材センターで発生した「就業途上に起きた交通事故」の状況や事故件数及びこれに伴う再発防止のポイントを「イラスト、事例」により掲載しました。  
また、ヒヤリ・ハットの事例についても、「イラスト、事例」により掲載しています。
- 4 自転車の危険運転について、道路交通法の改正が行われ、この改正内容等について、「イラスト」等により解説を行い、追加しました。

【お問い合わせ先 全シ協企画情報課 TEL 03-5665-8013】